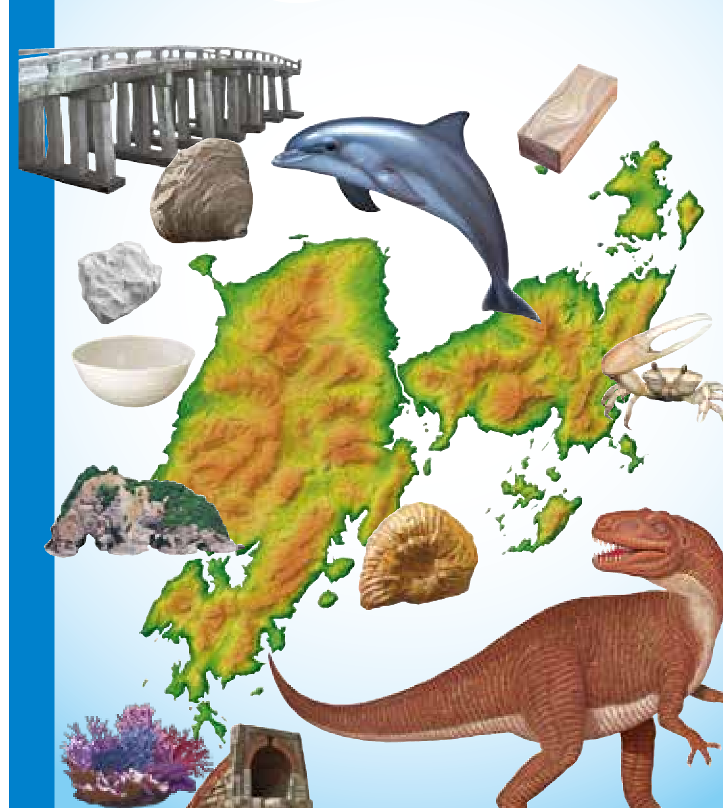
海にうかぶ博物館

天草ジオパーク

AMAKUSA GEOPARK マップ

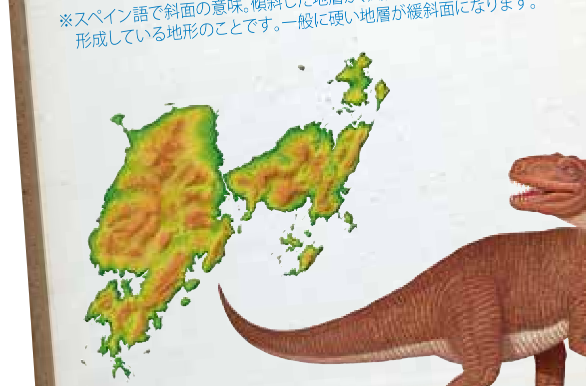


天草ジオパーク推進協議会
（熊本県天草市・上天草市・苓北町）

島に刻まれた大地の記録。天草は、海にうかぶ博物館です。

熊本県の南西に位置する天草諸島。
大小120もの島々で構成されるこの地域は、
風光明媚な多島海と、ケスタ地形※に現れる特徴的な
地質・地形をもっています。
一億年という時間の記録が刻まれ、
生命の不思議を感じさせてくれる、まさに宝の島です。
その島々で繰り広げられる人の営みによって
独自の文化が育まれ、豊かな山海の幸に恵まれた
観光地としても魅力あふれるエリアとして人気です。

※スペイン語で斜面の意味。傾斜した地層が、風化・浸食により急崖と緩斜面を形成している地形のことです。一般に硬い地層が緩斜面になります。



【ジオパークとは】
ジオ（地球）に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所がジオパークです。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える、つまり地球を丸ごと考える場所、それがジオパークです。

■ 天草ジオパークのテーマ

1億年の大地と生命の記録

～ 恐竜からイルカ、そして「石」文化が薫る楽園 Amakusa ～

太古の記憶をとどめ、生命の不思議を感じさせてくれる天草諸島。この地域を特徴づける5つの要素を「天草ジオパーク」の柱として、それぞれの特徴に含まれる地質・地形、景観、文化、産業を、各地に点在するジオサイトを通してご紹介していきます。

① 1億年の大地の記録
地層を形成する堆積岩や、マグマによってできた火成岩など、天草では太古から築かれてきた地質・地形を見ることができます。

② 豊富で多種多様な化石
白亜紀から古第三紀の地層には、海生生物と貴重な1億年前の恐竜や日本最古の大型ほ乳類に代表される陸上動物など、豊富で多種多様な化石がみられます。

③ 風光明媚な島の景観
多島海と、浸食によってできたケスタ地形に現れる褶曲構造。その地質・地形がつくりだすのは、天草を特徴づける風光明媚な景観です。

④ 豊かな生態系
野生のミナミハンドウイルカが定住する天草。イルカに代表される独特の生態系が天草にはあります。

⑤ 地下資源と「石」文化
地下資源が豊かな天草では、陶磁器や石橋、砥石などの独自の「石」文化が育まれています。天草に限らず広く人々の生活に根付いているのが特徴です。

【天草ジオパークの基本理念】
天草地域に存在する大地の遺産を住民、地域、行政などが協働して保全するとともに、教育・学習に活用し、また地域の歴史・文化・観光資源と有機的に連携させることにより、魅力的なジオツーリズムを構築しながら天草地域の振興を図ります。

天草誕生のストーリー

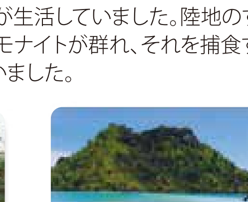
天草の島々は過去1億年の地球の歴史を記録しており、その成り立ちは一言では語れない。天草諸島がどのようにして出来たのか、異なる4つの時代を背景にした11の物語で解説する。

第1章 恐竜時代の陸と海
（地質時代：中生代白亜紀）

ストーリー1 恐竜王国

最初は、天草の最も古い岩石と恐竜をはじめとする白亜紀に生きた生物を化石として含む地層形成の物語から始まります。中生代白亜紀後期（約1億年前）の天草は海に近接する陸地から海で、多くの生物が生息していました。地下深い場所にあった岩石よりなる大地には、ワニやカメのすむ川が流れ、植物が森をつくり、陸上の支配者である植物食や肉食の恐竜たちが生活していました。陸地のすぐ近くには海があり、多くの貝類やアンモナイトが群れ、それを捕食するサメや首長竜がすむ世界が広がっていました。

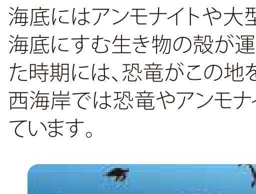
恐竜の棲む陸上の世界



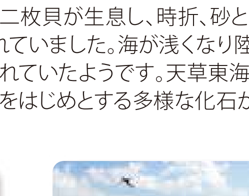
浅海の世界

ストーリー2 アンモナイトの海

恐竜時代の終わりに近い白亜紀後期（約8500万年前）、恐竜たちの歩いた陸地は日の光も余り届かない深く暗い海の底になっていました。海底にはアンモナイトや大型の二枚貝が生息し、時折、砂と共に浅い海底にすむ生き物の殻が運ばれていました。海が浅くなり陸上となった時期には、恐竜がこの地を訪れていたようです。天草東海岸と天草西海岸では恐竜やアンモナイトをはじめとする多様な化石が見つかっています。



深く暗い海の底

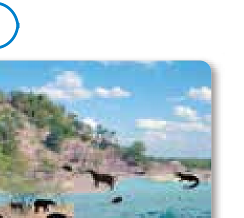


陸上となった時期

第2章 絶滅ほ乳類と石炭形成の時代
（地質時代：新生代古第三紀）

ストーリー3 大型ほ乳類の繁栄

恐竜絶滅後の新生代古第三紀（約5000万年前）の天草地域は、水の豊かな熱帯の陸地でした。陸地には恐竜に代わって大型のほ乳類であるコリフォドンやトロゴサスが植物を食べ、川にはカメやワニなどが生息していました。



熱帯の陸地

ストーリー4 浅く暖かな海から深く静かな海へ

熱帯の陸地はやがて温かく浅い海となります。その海底にはキリガイダマシなどの巻貝が生息し、大型底生有孔虫のヌンムリテス（貨幣石）が生息していました。干潟にはキバウミニナの祖先が生息する現在のマングローブ林に似た環境が広がっていました。天草上島に見られる厚い白岳層の砂岩はこのときに溜まった砂が岩石となったものです。浅い海はこの後、深く静かな海の時代になります。

浅く暖かい海

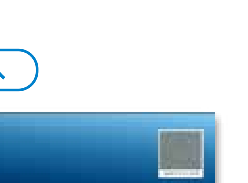
ストーリー5 石炭の森と下浦石の形成

約4500万年前になると、深かった海は浅くなり、砂が堆積する浅海から内湾へと変化しました。内湾では熱帯の気候下で大量の植物が堆積し、天草下島では泥炭の層が発達していました。これが後に「天草無煙炭」として知られる良質の石炭となります。一方、天草上島では泥炭の層は発達せず、浅い海には細粒の砂が堆積していました。この砂が固まった岩石（砂岩）は、下浦地域のものを「下浦石」と呼び、石材として利用されました。

泥炭の堆積する内湾

ストーリー6 再び深く静かな海へ

浅かった海は、再び深く静かな海になりました。その海底では、海緑石と呼ばれる濃緑色の鉱物が形成され、大量の貝類の死骸と共に溜まっていき、一町田砂岩とよばれる地層が形成されました。約3800万年前になると、さらに深い海底で泥と砂が堆積して、天草下島に分布する坂瀬川層が形成されます。おっぱい岩もこの地層の泥岩に形成されたものです。



海緑石の形成された海底

【天草のグルメ＆特産品】

AMAKUSA GOURMET & SUPECIALITIES

四方を海で囲まれた天草は、外洋と内海の潮流が複雑に混じり合うため、種類、水揚げともに豊富な海の幸や、独特の地形を利用した柑橘類などの山の幸に恵まれています。そこで暮らす人々の手によって受け継がれてきた食文化は、どこにもない宝物のようなものです。

天草ちゃんぽん

長崎ちゃんぽんから生まれ、独自の食文化を築いてきた天草ちゃんぽんは、知る人ぞ知る日本三大ちゃんぽんのひとつです。こだわりのスープに天草ならではの食材を使ったとびっきりの味をお楽しみください。

がね揚げ

千切りにしたサツマイモを衣につけて揚げた手づくりのお菓子。田んぼが少なかった天草で盛んに栽培されていたサツマイモを使って、親から子へ代々受け継がれてきた家庭の味です。揚げた姿がカニ（地元でガネと呼ぶ）に似ていることからこの名前に。

こっぱもち

平地が少ない天草では、サツマイモが貴重な食料として盛んに栽培されていました。このため、天草にはサツマイモを使ったお菓子や料理が数多く、その中のひとつがこの「こっぱもち」。干したサツマイモと蒸したもち米を練り合わせた素朴な味わいです。

天草 食のトリビア

復活を遂げた日本最大級の地鶏「天草大王」

へぇ～！

明治初期から大正時代に博多の水炊き用の地鶏として珍重されていた「天草大王」。昭和初期に絶滅したものを、10年の歳月をかけて平成13年に復元！ 日本最大級のサイズで、歯ごたえのあるしっかりした身を持ち、良いダシが出ると評判です。

■ 天草への交通アクセス

飛行機ご利用の場合

【阿蘇くまもと空港発着】
熊本（阿蘇くまもと空港）
天草エアライン20分
天草（天草空港）

【福岡空港発着】
福岡（福岡空港）
天草エアライン35分
天草（天草空港）

バスご利用の場合

熊本交通センター
110分
上天草（松島）
50分
本渡バスセンター

JR ご利用の場合

熊本 → 特急で約40分 → 三角 → バス / 天草宝島ライン（船） → 松島 → バス / 天草宝島ライン（船） → 本渡 → バス → 苓北 → バス → 牛深

熊本 → 約30分 → 出水 → シャトルバス → 蔵之元 → フェリー → 牛深

JR（新幹線・在来線）
その他交通機関（陸路）（バス・車）
その他交通機関（海路）（旅客船・フェリー）

マイカーご利用の場合

長崎県茂木港 — 旅客船45分 — 天草郡苓北町
長崎県口之津港 — フェリー30分 — 五和
天草空港 — 約10分 — 天草市本渡
天草郡苓北町 — 約25分 — 五和 — 約15分 — 天草市本渡
天草市本渡 — 約40分 — 上天草市松島
熊本市 — 約90分 — 太宰府IC
熊本市 — 約105分 — 鹿児島IC
熊本市 — 約80分 — 上天草市松島
上天草市松島 — 約30分 — 上天草市龍ヶ岳
天草郡苓北町 — 約15分 — 下田温泉 — 約20分 — 大江
下田温泉 — 約30分 — 天草市本渡
天草市本渡 — 約20分 — 栖本 — 約10分 — 倉岳
上天草市龍ヶ岳 — 約30分 — 倉岳
大江 — 約15分 — 河浦
天草市本渡 — 約20分 — 河浦 — 約20分 — 牛深 — フェリー30分 — 鹿児島県蔵之元港
河浦 — 新和 — フェリー35分 — 鹿児島県諸浦港
倉岳 — フェリー40分 / 旅客船30分 — 天草市御所浦

【お問い合わせ先】
天草ジオパーク推進協議会事務局
（天草市役所観光文化部ジオパーク推進室内）
〒863-0048 熊本県天草市中村町10-8
tel.0969-23-1111（内線2534） fax.0969-23-5312
ama-geo@city.amakusa.lg.jp

実際に見て、ふれて、感動！

天草のジオサイトをめぐってみよう

『恐竜の島を探険しよう』

◎ 牧島サイクリングコース

御所浦港から牧島までは、絶好のサイクリングコース。御所浦の海の玄関口にある物産館「しおさい館」で自転車をレンタルして、牧島に向かいましょう。恐竜の島・御所浦を身近に感じる片道約4.5kmのなだらかなコースです。

アコウの木
アンモナイト館

① しおさい館（自転車をレンタル） → ② ニガキ化石公園 → ③ アコウの木「あこうの里ふれあい館」（トイレ利用可） → ④ 長浦 → ⑤ アンモナイト館周辺

◎ 恐竜の島一周クルージング

恐竜の島・御所浦を海の上から観察するクルージングコースです。島に詳しいジオツーリズムガイドの案内があれば、一つひとつのジオサイトをじっくり理解することができます。海の上からのみ見学できる「白亜紀の壁」など見どころ満載です。

白亜紀の壁
採石場跡

① しおさい館（海上タクシー手配） → ② 弁天島 → ③ 京泊 → ④ 採石場跡 → ⑤ 白亜紀の壁

※ レンタサイクル・クルージングの料金などの詳しいお問い合わせは、御所浦物産館しおさい館（0969-67-1234）まで。

『天草の海と山の絶景を満喫しよう』

◎ 多島海の絶景を楽しむドライブコース

上天草市の松島は、天草の多島海の地形を代表する名勝です。高舞登山は、その松島の風光明媚な景色を一望できるおすすめのビュースポット。ドライブの途中で天草の大地の成り立ちを目の当たりにできる絶好のジオポイントでもあります。

高舞登山からの景観
天草ビジターセンター

① 天草ビジターセンター → ② 千巌山展望所 → ③ 高舞登山展望所 → ④ 祝口観音の滝

【天草ジオパークモデルコース】

"AMAKUSA GEOPARK" MODEL COURSE

『天草の海と山の絶景を満喫しよう』

◎ 天草西海岸の絶景を訪ねるドライブコース

天草下島の西海岸には、ダイナミックな天草の地形を観察できるポイントが多数あります。長い時間をかけてつくりだされた自然の美しさを堪能できるコースです。特にこの地域は外洋に沈む夕陽が美しく、夕暮れ時を狙って訪れるのがおすすめです。

妙見浦
富岡の砂嘴

① 黒崎海岸 → ② おっぱい岩 → ③ 砂州・砂嘴 → ④ 富岡ビジターセンター → ⑤ 妙見浦

『イルカの海と人々の暮らしを体感しよう』

◎ 天草の石文化とイルカウォッチング

地下資源が豊富な天草には、採石された石材をもとに多くの石橋が各地でつくられていました。その石文化を訪ねて歩くモデルコースです。旅の終わりには、天草の豊かな海を象徴するイルカウォッチングで、心から癒されるひとときを！

イルカウォッチング
祇園橋

① 棚底の石垣群とコグリ → ② 下浦石露頭 → ③ 祇園橋 → ④ 山口の施無畏橋 → ⑤ イルカウォッチング

◎ 天草の地下資源をめぐるドライブコース

1億年もの長い間刻まれた大地の記録は、良質な石炭や、天草陶磁器という伝統工芸、人々の疲れを癒す温泉など、地域で暮らす人たちにさまざまな恩恵をもたらしてきました。天草の産業の移り変わりについても学べるドライブコースです。

下田温泉
牛深炭鉱烏帽子坑跡

① 牛深炭鉱烏帽子坑跡 → ② 魚貫炭鉱遺構 → ③ 天草陶石の露頭 → ④ 志岐炭鉱石碑台座 → ⑤ 下田温泉

第3章 火山と地殻変動
（地質時代：新生代新第三紀から第四紀）

新生代新第三紀は九州から瀬戸内海沿岸地域で活発な火成活動が起きた時代である。また、この時期に地殻変動も起き、天草地域の褶曲構造が形成される。これが天草諸島の原型をつくっている。

ストーリー7 天草陶石を生んだ火成活動と褶曲の形成

新生代中新世の始め頃（約2000万年前）、アジア大陸の東岸では日本海が開きはじめ、九州の大地は横からの圧力で、これまで堆積した地層が隆起・傾動し、天草地域の大きな褶曲（しゅうきょく）構造を生み出したと考えられます。天草地域では1900万年前から1300万年前にかけ、富岡半島と天草上島では花崗岩類が貫入し天草下島西海岸では陶石を産む岩脈と熱水活動が連続して起き、良質の陶石の原材料が生成されました。また天草上島では地層中にマグマが貫入する火成活動が起き、倉岳ができます。その後、1000万年前から700万年前の期間は冷え固まると黒色になる性質のマグマが活動しました。

ストーリー8 大矢野島・長島の火山活動と佐伊津層の形成

新生代鮮新世の約400～300万年前、大矢野島と鹿児島県長島では火山活動が活発に起きていました。大矢野島周辺では飛岳・柴尾山・白濤・大山・大矢野岳・高杢島などに代表される小火山が形成されています。同じ頃、天草下島南方にある長島の火山活動も活発で、噴出した岩石は牛深地域南部の下須島まで到達し、法ヶ島の獅子吼岬にその一部を見ることができます。天草下島北部では火山起源の土砂と動物・植物（メタセコイヤや、ツゲ、ブナ、カバノキの仲間）が河川や湖に堆積し、佐伊津層が形成されました。この佐伊津層がつくりだした平坦面は現在の天草空港として利用されています。

火山活動が活発な時期の大矢野島周辺地域

ストーリー9 阿蘇火砕流の到達

約9万年前、阿蘇山は4回目の大規模な噴火活動を起こしました。そのとき流れ出した火山ガスと岩石片からなる火砕流堆積物（Aso-4）は有明海を横断し、天草下島まで到達しました。

第4章 人の定住と天草諸島の誕生
（地質時代：新生代第四紀）

ストーリー10 有明海と八代海の形成と人の定住

約2万年前（最終氷期）、現在の有明海と八代海周辺の地域は陸地であり、今の秋田や青森のような涼しい気候でした。この頃から天草地域では人が住んでいた証拠である石器などが見つかります。約1万年前になると、地球全体が徐々に温暖化することによって海水面が上がり、有明海と八代海にも海水が進入し始めます。約5000年前のいわゆる縄文海進時代には現在よりもっと内陸まで海が広がっていました。その後、海水面が少し低下して、現在の海の水位になりました。

約２万年前の有明海
現在の海の姿

ストーリー11 西洋文化と地下資源の近代そしてイルカの楽園へ

16世紀末に天草で西洋文化が華開き、やがて訪れた弾圧に、人々はパライソ（楽園）を夢見て立ち上がるも天草・島原の乱に散っていきます。乱の3年後、荒廃した天草を再建するため鈴木重成らが復興を始めます。肥前の国藩士松室五郎左衛門が伝えた石工技術により、多くの石工が生まれ、天草の復興と共に地元の下浦石を利用した石橋が天草の交通の要所に作られていきました。国指定重要文化財の祇園橋は下浦石を利用した建造物の代表例です。また、天草陶石を用いた磁器生産は、内田皿山窯跡や下津深江窯跡などで17世紀中頃に下島北部から西岸域で行われました。豊富な産出量と良質を兼ね備えた天草陶石は、磁器生産の中心地である佐賀県有田や京都の清水焼にも磁器原料として出荷されるなど日本の窯業を支えています。

明治時代になると本格的な石炭採掘が行われました。天草地域の石炭の特徴は、全国でも希な無煙炭とよばれる煙が少なく高カロリーの熱量を発する石炭にあります。天草炭鉱は1856年に現在の苓北町から熊本へ石炭が積み出された記録が最も古く、最後の坑口が閉鎖する1975年までの約120年間にわたる歴史がありました。

そして現在、サンゴが生育する温暖な海と、豊富な魚を求めてイルカが住み着く豊かな自然環境があり、緑豊かな島々に人々の文化が栄えています。

サテライト施設の紹介

天草の自然について体験学習できる3つの施設。
この施設を中心に、ジオパークの情報を発信していきます。

■ 天草市立御所浦白亜紀資料館

恐竜の化石が発見されたことをきっかけに、平成9年7月に開設した資料館。日本最大級の肉食恐竜の歯化石をはじめ約1,000点を展示。

住 天草市御所浦町御所浦4310-5
問 0969-67-2325
料 大人 200円 / 高校生 150円 / 小中学生 100円
開 8:30 ～ 17:00
休 月曜（祝日の場合は翌日）、12/29～1/3

1億年前の化石をみつけよう！

- 資料館から歩いてすぐの場所に化石採集場があります。化石採集をするには資料館の受付での申し込みを行い、無料で貸し出せる化石採集用のハンマーを借りましょう。
- 島民を中心とする御所浦ジオツーリズムガイドも利用できます。（別途ガイド料・要予約）

■ 天草ビジターセンター

天草の自然や歴史などを、ビデオや展示物で紹介する施設。海辺の生物を観察する「干潟の観察会」や「海ホタルの観察会」などが行われています。

住 上天草市松島町合津 6311-1
問 0969-56-3665
料 無 料
開 9:00 ～ 17:00
休 火曜（祝日の場合は翌日）

周辺のジオサイトを見に行こう！

ビジターセンターのある永浦島西部にはハクセンシオマネキの生息地と干潮時に陸続きとなる高杢島のジオサイトがあります。天草五橋を渡り終えた天草上島千巌山展望所からは天草五橋付近の多島海地形を展望することができます。

■ 熊本県富岡ビジターセンター

富岡城の本丸跡に整備された施設。雲仙天草国立公園の自然や、周辺地域の歴史・文化・環境などについての情報を発信しています。

住 天草郡苓北町富岡字本丸 2245-15
問 0969-35-0170
料 無 料
開 9:00 ～ 17:00
休 水曜（祝日の場合は翌日）

周辺のジオサイトを見に行こう！

ビジターセンターの東側は富岡半島の砂州と砂嘴を一望できる絶好のポイントです。また富岡半島の西部海岸は富岡海域公園に指定されています。この海岸では砂岩と泥岩の地層をマグマ活動で生じた安山岩が貫いている様子が観察できます。